ひばり

立山町立釜ヶ渕小学校

巨大ヘビが釜ヶ渕小学校を襲う！？

釜ヶ渕小学校に巨大なヘビが出現！？

いえいえ、ご安心ください。図画工作科で２年生が１階マルチパーパスから３階屋上まで新聞紙をつないで作りました。K君も数枚の新聞紙を手に作っていました。Sさんや T さんに「K君、ここをつないで」と声をかけられ、みんなと新聞紙をつなぐK君。だんだん長くなっていくヘビに大興奮しました。何度も１階から３階まで昇降を繰り返し、ヘビの長さを確かめました。

ところが事件が発生！あと少しで屋上に届くというのに、新聞紙が足りなくなったのです。するとK君は２年教室に戻り、自宅から持ってきた新聞紙を全て３階まで持ってきたのです。O さんが声をかけました。

O「K君、新聞紙ちょうだい」

K「いいよ」

そして、ついに屋上まで完成！2年生 13 名全員の力で作り上げた巨大なヘビ。教室にあった新聞紙をかき集めてへ

新聞紙をつないで・・・

「新聞紙を頂戴」「いいよ」

巨大ヘビ、完成！

ビをつなぐ友達の様子を見ていたＫ君。「新聞紙が足りない」

という状況で、教室まで自分の新聞紙を取りに行ったのです。

　周囲の様子を見る力も育ったこと、自分の持ち物を覚えて

いたこと、持ってくるという判断をして行動に移したことに

Ｋ君の成長を感じました。これまでの温かな友達との関わり

があったからこそ生まれた成長です。そして、Ｋ君の活躍で、

２年生みんなの作品が完成した喜びが、Ｋ君のさらなる成長

を促してくれることと思います。

「一人で、できた！」

　苦手なことに繰り返し練習をするのはつらいもの。

　なぜなら苦手なことって、何回挑戦してもうまくいかないように

感じませんか。けれども、自分ががんばってきたことが目に見えた

らどうでしょう。私はよく子供たちに「努力の壺」の話をします。

た。「私たちは努力の壺というものを持っています。自分の壺の大きさは一人ずつ大きさが違います。

ジャンケンのグーくらいの小さな壺の人もいれば、先生の体位の大きさの壺の人もいます。この壺から

あふれる位、練習を積み重ねると、ふっとできるようになるのです。例えば、逆上がりができないとき、

何度も何度も練習をしましたね。練習を積み重ねて手にまめがいっぱいできて、あるとき突然『できた！』となります。３日位で、できる人もいれば１か月位でできた人もいます。これは、努力の壺の大き

さが人によって違うからです。」この話をすると、苦手なことにも楽しく目標をもって取り組むようになります。K君の目標は次の3つです。

①玄関で健康観察カードを出し、2階のひばり級まで荷物を8時までに持っていくこと

②8時15分までにランドセルの片付けと日付を変えること

③連絡帳やカタカナ、漢字などノートを書くこと

努力の壺がいっぱいになる様子がイメージできるようにタッパーにビー玉をためています。
K君「(ビー玉が)いっぱいになったら、どうするの？」
担任「お楽しみ会を開こうよ！」
K君「やったー！」
　この話をしたのが先週の月曜日。火曜日は、時間内にできませんでした。水曜日の朝、2年生や1年生の子供達が糸電話をしているのを見て
K「ぼくもやりたい！」
ランドセルを担いだまま、目をきらきらさせて駆け寄ってくるK君。
担任「みんな、ランドセルを片づけた人ばかりだよ。ねえ？」
H「うん、ランドセル片づけたよ」
K「ランドセル片づけた人？(が遊べるの？)」
担任「そうそう」
K「片づけてくる！」
と、2階へ大急ぎで片付けに行きました。木曜日、玄関に迎えに行くと、
K「ランドセル片づけた人、遊べる？」
担任「そうだよ」
　そして、朝の片付けを8時16分に終わりました。おしい！できなかったことが悲しくて、泣き始めたK君。
K「もっかい、やりたい！」
担任「大丈夫！今度はカタカナ練習をがんばったら、努力の壺にビー玉を入れられるよ」
K「うん」
泣きやみ、気持ちを切り替えたK君。そして、金曜日。7時55分に教室をちらっと見ると、すでにK君がいるではありませんか！
K「一人でできた！」
にっこり笑い、努力の壺にビー玉をためました。

ビー玉を入れるたびに、頑張ることを楽しむかのようににっこり笑う K 君。つらいことも、苦しいこともきっとあるけれど、目標を達成するための努力を続けられる人になれるよう、一緒に成長していきたいですね。